

わんぱく☆フェスティバルを終えて…

今年は、1年6ヶ月ぶりに、こども園の庭で、わんぱく☆フェスティバルを開催することができました。今回は、参加人数の制限を行いました。その分子ども達に近いところで、触れあえる半日になったのではないのでしょうか。

子ども達が毎日を過ごす園庭で、行事ができることは大きな意味があります。それは、一斉的な練習に固執しないで済むからです。当園を見学に来られた方は、「運動会はどこでするのですか?」と必ず聞かれます。「この庭です」と答えるとみなさん、驚かれます。大型の固定遊具や木々、ベンチやテーブル、数々の遊びのコーナー…。側から見ると障害物だらけのごちゃごちゃした庭にしか映らないのでしょうか。鬼ごっこの時、子ども達は目の前の障害物をそれは上手く避けて走ります。**この庭は子ども達の感性と身体能力を高める自慢の庭です。**

小学校のような凸凹のないグラウンドのような庭で、何が育つでしょうか?

高低があるから子ども達は、距離を押し測り、今の自分の力に見合った挑戦をします。挑戦してきたことやいつも遊んでいることをわんぱく☆フェスティバルで、お見せすることは、日ごろの遊びの延長線で、無理のない行事になると自負しています。

子どもひとりひとりの興味や関心が違うように、挑戦する時期や達成時期も違います。フェスティバルの前日、「くものすわり」の一本橋が苦手だった、ばなな組のHさん。いつも一緒に遊んでいる友達が「勇者のダイブ」から初めて跳んだことに火が付きまして。5分くらい、怖さと戦いとうとう、「\*勇者のダイブ」から跳んだのです。私達は、本人にプレッシャーを与えない距離でその様子を見ていました。着地の瞬間、顔は真っ青で身体は震え、号泣していました。たくさんの感情がHさんを駆け巡ったことでしょう。まさに、**Hさんの情動が揺さぶられた瞬間**でした。このように**恐怖を乗り越えて、成功体験を積むことは、自信となり自分を肯定できることに繋がります**。私たちはそんな子ども達のドラマチックな瞬間を共有できたことに、保育者としての喜びを感じます。フェスティバルが終わっても、それぞれの挑戦は、続いています。是非、ドキュメンテーションをごらんください。

\*「勇者のダイブ」～園庭中央のツリーハウスから跳んで着地できるゾーン。下にマットが敷いてあるものの上に立つと子どもの身長から見下ろすと2m強の高さがある。

銀(しろかね)も 金(くがね)も玉も 何せむに まされる宝 子にしかめやも

奈良時代初期、山上憶良の歌です。覚えていらっしゃる方も多いのではないのでしょうか。「遙か、万葉の頃から子どもは、何にも代えがたい大切な存在であり、親の子を思う気持ちは時代を超えても同じ」と中1の時に教科担任から、教わったことをはっきりと覚えています。あれから、数十年。私も親になり、この歌の無類の優しさをしみじみと感じる年になりました。

子に優る宝はない。この理は奈良時代も令和も変わらないはずですが、人類の長い歴史の中で子どもの人権は無いに等しかったでしょう。しかし、現代は違います。法的に保障されているはずですが。

残念ながら、昨今の報道では、子どもに対する虐待やいじめ、体罰などが後を絶ちません。つい先日は、運動会の練習中にけんかをしていた小3の男児を教師が背後から蹴り、太ももを骨折する大けがを負わせた事件がありました。「痛みを分からせたかった」と本人の弁のようですが…。行き過ぎた指導であることは、明らかです。なぜこのようなことが起きるのでしょうか?

家庭内でも「しつけ」と称した体罰や言葉などによる虐待、ネグレクトなどが後を絶ちません。ことし1月からの児童相談所が対応した件数は、半年で9万8000余りに達し、過去最多のペースだそうです。保育の現場でも苦手なものを無理に食べさせたり、眠れない子どもを拘束したり…など。

子どもは、小さな大人ではありません。精神的にも身体的にも大人が庇護しなければならない存在です。

おおむたこども園では、保育者が「園児ひとりひとりに丁寧に関わること」を課しています。これは、**子どもひとりひとりの人権を尊重することに値します**。園における子どもの人権を尊重するとはどういうことでしょうか。例えば、子どもを裸で人前にさらさない。「〇〇しないと〇〇できないよ!」などの脅しや威嚇の言葉を発しない。食べ物の無理強いをしないなど…。細かなことを上げたら限がありません。**園の主人公は、子ども達であり、主体は子ども。子どもが自分で選択できることを常に保証し容認できる保育者をめざしています。**

子どもが心身ともに健やかに育つことは、大人にかかっています。**子どもは、些細な言葉でも傷つきます。脅されて育つと他人を脅します。叩かれて育つと他人を叩きます。愛されて育つと人を愛することができます。**何気ない大人の言葉や言動が子ども達を傷つけてしまうことを皆さんに考えていただきたくて、万葉の歌をご紹介しました。